

# ★2009東海村成人の集い★

皆さんの参加を心よりお待ちしております

私たち、「2009東海村成人の集い」実行委員会のメンバー10人は、来る1月10日の成人の集いをより良いものにしようと話し合いを重ねてきました。成人者の皆さん、一生に一度の“成人の集い”を大切な仲間と楽しく過ごしましょう！保護者の皆さんも、“最後の授業参観”だと思っぜひご来場ください。

「2009東海村成人の集い」実行委員一同

- 期 日 平成21年1月10日(土)
- 時 間 午前10時開会
- 場 所 東海文化センター(ホール)
- 問 合 せ 教育委員会社会教育課生涯学習担当(☎282-1711 内線1424)

今年のテーマは「贈」<sup>おくる</sup>—想いを未来へ—



「2009東海村成人の集い」実行委員(前列左から浦川舞、助川結香、大貫理紗、田川奈菜瀬、埴智子、後列左から黒沢宏美、関田靖子、関田晴美、須藤優、鈴木めぐみ)



## 月下の宴

茨城キリスト教大学名誉教授

志田 諄一

徳川光圀の漢詩を収めた「常山文集」に、村松の虚空蔵堂を詠んだ漢詩があります。

村松に遊び 月の東溟に昇るを観る  
鞍を叩いて此の地に遊ぶ  
空蔵 殿堂新たなり

月は出づ 村松の海  
風は清し 正木の浜

雲横たわって 雲 玉を砕き  
浪動いて 浪 銀を淘ぐ

席を設く 白沙の上  
終宵 酌んで酔に酔う

馬に鞭打ちながら、村松を訪れた。新装なつた虚空蔵尊の殿堂が印象的である。夜になって、

月が東海から昇り、さわやかな風が正木の浜にさざなみを立てている。たなびく雲の間から、

月の光が砕いた玉のように射している。きらめく波は、まるで銀をより分けているかのようである。そこで白砂の上に宴席を設け、夜もすがら美酒に酔いしれる。

と私なりの解釈を試みました。なお、光圀は詩の後に「村松村に虚空蔵有り。正木は湖の

名」と注記しています。

光圀は天和2年(1682年)に虚空蔵堂の伽藍

と本尊を修復しており、貞享3年(1686年)にも虚空蔵尊を修繕させています。詩には「空蔵

殿堂新たなり」とあるので、元禄になってからの作と思われる。光圀は元禄7年(1694年)、

村松五所大明神の神殿を造築し、同9年(1696年)に伊勢よりあらためて分霊を奉還して大神宮

としているので、そのころの作かも知れません。

光圀が白砂の上に宴席をしつらえ、月下の村松の海や正木湖を視界にして夜も

すがら美酒を酌み交わしたところは、虚空蔵堂の裏山の「村

松晴嵐」の碑が立っている辺りと思われる

ます。

